

SELP Vision 2030 事例紹介

2022.11.4掲載

行政・福祉施設・地域

広がる連携の輪で、防災意識の改革を

社会福祉法人昭徳会 授産所高浜安立

SELP Vision 2030より、主に実現したチャレンジ

5



8



事業所紹介

所在地	愛知県高浜市向山町6-1-1
法人名	社会福祉法人昭徳会
施設・事業所名	授産所高浜安立
事業種類	就労継続支援B型・就労移行支援・生活介護
主たる障害	知的障害
定員	52人(令和4年11月現在)

●地域で防災を楽しみながら学ぶ

社会福祉法人昭徳会の「授産所高浜安立」を中心に、平成23年秋頃より『高浜市民の防災フォーラム』を年に1回開催しています。行政や消防団が一緒になり、万に備えて、大切な命を守るように楽しみながら防災を学べる体験イベントです。

当法人内の事業所(ケアハウスや特別養護老人ホーム)を会場として利用し、起震車による地震体験、煙トンネル、避難所体験、消火器体験、炊き出し、AED体験、災害時に役立つ備品のワークショップなどを開催しています。当事業所の障がいのある方にも、けん引式車椅子体験のモデルなどに参加してもらい、楽しみながら防災を学ぶ機会をつくりました。

ここ数年、愛知県は自然災害が少なく、当初は参加者が集まりづらい状況でした。子どもから大人まで広く関心をもってもらえるよう、地域の小中学校や障がい者施設に数千枚のパンフレットを配布し、高浜市や社会福祉協議会の広報誌にも告知しました。イベントを重ねるごとに参加者の人数が増え、参加者から「何を備えると良いのか、新しい気づきに繋がりました」という声を続々といただき、地域の皆さんの防災意識の高まりを実感しています。



● 叡智を結集して安心の輪を広げる

当事業所では「障がいがあっても世の中の役に立ち、みんなが笑顔になれるモノを作りたい」という思いから、企業や大学との2年半に渡る開発期間を経て、特定原材料不使用のアレルギー対応の焼き菓子「ぱりまる」を自主製品として製造しています。

東日本大震災の際、避難所に「ぱりまる」を提供して、アレルギーの子どもがいるご家族から心温まるお手紙をいただいたこと、そして、被災した福祉施設でボランティア活動を行い「被害を最小限にするためにできることはないか」と考えたことが防災フォーラムの原点となりました。

コロナ禍が続いた令和3年は、外国人や高齢者、障がい者の「避難行動要支援者」に焦点をあて、大きな会場で定員を制限し、講演会とワークショップを開催しました。ワークショップでは防災ビンゴゲームを活用して防災備品の準備を楽しく学んでもらうほか、当事業所の障がい者がラッピングしている災害保存食パン缶をプレゼントして外装に避難所の場所を記入してもらうなど、従来から形式を変えてイベントを継続しています。



● 防災の先に基本理念「幸福」を追求

当法人内に設立した災害対策プロジェクトでは、防災意識の改革が急務だと考えました。そこで、姉妹法人である日本福祉大学と連携し、災害想定の確認やBCP(事業継続計画)の作成を通して、危機管理意識の構築に従事しました。

また、想定外のことが起こったときのために、法人全体で防災士の資格取得に取り組み、20拠点のうち18拠点(各拠点施設に1名以上)で防災士を配置することができました。特に当事業所は、高浜市より福祉避難所や一時避難所、風水害避難所等に指定され、台風接近に伴い避難所を開設しているため、防災意識を高める重要性を把握しています。今後は、企業や商業施設との連携により防災フォーラムを進化させ、地域全体の災害への意識を高めたいと思います。

当法人は「関わる全ての人々が幸せである」ことを考え、地域と福祉社会の発展に努めているため、私達の防災への取り組みが、ひいては幸せに暮らせる社会につながることを願っています。今後起こるかもしれない非常事態に備えて、まずは危機意識をもつことが大切です。取り組むにつれ、当法人内の防災意識と社会貢献意識も高まりました。自分達に何ができるかを考え、一歩踏み出してチャレンジしませんか？

